山梨県スポーツ指導者協議会
会報
第十一号
平成13年
4月30日
発刊

巻頭言

山梨県スポーツ指導者協議会
会長　一木昭男

平成十三年のスポーツ界は画期的変革を呼ぶ年と成るものと期待しています。第一にスポーツ指導者制度が従来の社会体育指導者の大臣認定からスポーツ指導者として法律に認可され、スポーツ振興法に明文化されたことにより、その活動の場面が明確になると思います。第二は保健体育審議会の答申による日本のスポーツの基本計画が示されて、その目がはっきりと示されたこと。第三はｔｏｔｏの販売が開始されたことであります。

文部科学省に改変された省内も青少年局としてスポーツ行政を担当し、新しくスポーツ振興策の実践のために活動が示されて来ています。オリンピックに勝るとも言われる平成十四年ワールドカップのサッカーの開催により、スポーツへの関心は世界的に高まるものと思われます。これは我が国のスポーツの実態を世界に示すよい機会でもあります。

スポーツの基本計画の三本柱を見ると、一にスポーツの参加者の拡大であります。成人の週一回以上のスポーツへの参加を従来の三十％以下から五十％に引き上げる計画であります。二人に一人はスポーツを行うことを期待しているわけであります。そのために総合型地域スポーツクラブの設置であります。全国に四〇〇箇所以上を設置する目標であります。本県にも少なくとも四箇所以上の施設を設けて、スポーツ振興策の拠点として他に中学校単位に地域スポーツクラブを設けてスポーツ活動を進める。これは初心者から熟練者まで、幼児から高齢者までを対象に、複数の運動種目が開催される様に期待されています。

スポーツ指導者の役割は重要な位置付けと成るものと思われます。二に競技力の向上策であります。従来のオリンピックで獲得したメダル一・七％を次の大会で三・五％まで獲得できる選手の養成であります。国立トレーニングセンターの設置、各都道府県にも類似のセンターを設けて、一貫した指導体制を行うことであります。ここにも本会会員の活躍が期待されるわけであります。

三に学校のスポーツクラブの活性化であります。少子化により生徒数が減りクラブ活動が充分にできない学校が多くなり、教員も高齢化して、生徒のスポーツのニーズに対応できない学校が多くなり、これにスポーツ指導者が大いに係わりを持って指導して欲しいと思います。

文部科学省と日本体育協会等の主催の総合型地域スポーツクラブのマネージャー講習会が八日間に亘り開催され、全国から百三十名の各地のスポーツクラブ所属者が参加し、熱心な受講者から多くの事例が紹介されました。この講習会に山梨代表として参加して本県の遅れを痛切に感じました。県市町村の行政・教委・体協・指導者協・クラブ指導者等が一堂に会して今後の方向づけについて検討しなければならないと思います。サッカーくじの配分も受け皿のあるスポーツクラブが対象であり、本県のスポーツ普及は遅れるばかりです。

我スポーツ指導者協議会会員のみなさん、自分で協力出来るものを明確にして本県のスポーツの発展に協力して欲しい。

関東ブロック会議に出席して

山梨県スポーツ指導者協議会
副会長　土屋　金蔵

平成十二年度第一回全国スポーツ指導者連絡会議・関東ブロック会議は、六月三十日、七月一日に東京都新宿ニューシティホテルにおいて「指導者の養成と活用」をテーマとして開催された。

指導者認定事業が文部科学省令で定められ、保健体育審議会の答申をうけて、日体協では現行制度の見直しを始め、指導者育成専門委員会で①指導者養成の将来構想②現行養成システム③活用方法の具体的内容について検討しており、公認スポーツ指導者制度の改訂も行った。（指導者の登録・認定）五項に、「二・登録指導者は、本会と本会加盟団体の組織内指導者とする」が加えられ、（指導者の権利）が六項に新設されている。

研究協議では、省令化、総合地域スポーツクラブのあり方、NPOの活用、学校スポーツクラブへの指導者派遣や義務研修と資格更新の問題等について質疑があり、特に資格更新については現在の更新率は六十％以下、受講済者のみの更新ではもっと低くなるので、組織の量、日本のスポーツを動かすことを考えると画一的に未受講者の更新をしないことは問題ではないかとの話もあった。

この度の省令化により指導者の価値、権利・義務も明らかになり、日体協でも国民スポーツ振興方策の中で、指導者の養成と活用に配意していることが分かった。

我々は組織、個人としても地域・行政・団体に働き掛けて、公認スポーツ指導者の位置付けを進めるとともに、実力ある指導者としての資質を高めなければならないと感じた。

平成十二年度公認スポーツ指導者全国研修会に参加して

山梨県スポーツ指導者協議会
甲府支部　篠原　達夫

「スポーツ指導者は、自己研鑽を積んだ社会的信頼度の高い人である。」このことばを耳にしている昨今である。本年度の全国研修会が、東京両国にて開催されました。公認スポーツ指導者約五百名の参加であった。

表彰式では、永年本県スポーツの振興と発展に貢献し、顕著な功績を挙げられた松野傳氏（甲府市）と向山真悟氏（山梨市）が受賞された。一木県会長・土屋副会長・吉田甲府支部長・岡村県体協の県代表の方々も「組織的活動による山梨スポーツ指導体制づくりの積極的推進を」が、合言葉の研修参加であった。

特別講演では、なべおさみ氏のユーモアたっぷりの「子どもの将来像を見据え、特性を生かした指導」の情感豊かな話・パネルディスカッションでは、「情報は自らの処理で・相手の要求を察知せよ・好きな事は人生にとって糧」等三氏から提言。分科会では、「地域スポーツクラブでは、四者（自治体・学校・家庭・指導者）が一体となれ」等多彩な内容の提示が見られた。夕食の交流会は、各県の実状を出し合うなごやかな雰囲気の中で、互いの指導者としての連帯感を高める楽しいひと時であった。

研究会に参加して、内容豊富の貴重な多くの「刺激」を受け、指導者としての任の重さ・大きさを痛感した。「今後二十一世紀に向かうスポーツの指針はどうあったらよいか」を自問自答しながら考え模索しながらの帰路であった。

「気づく」ことの大切さ
―山梨県スポーツ指導者研修会に参加して―

少年スポーツ上級指導員
若尾重廣

指導者として必要なことは資質の向上であり、魅力ある指導者に成るべく常に努力することではなかろうか。資質の向上、それを可能にするものはその学習と実績に負うところ大である。関係書物を読むもよし、研修会・講習会に参加するのもよし、その方法、手段はいくつかあると思う。しかし、ただ読む、動員要請があるので仕方なく参加するのでは意味はない。目的意識をもって精読し、参加することが肝要である。それによって書物から、研修会・講習会での講話や質疑応答等から、多くのことに「気づく」ことができる。「気づく」ことは向上の第一歩である。ギリシアの偉大な哲学者ソクラテスは「無知の知」の大切さを解き、中国の哲人孔子は「学びて思わざれば則ち罔(くら)く、思いて学ばざれば則ち殆(あやう)し」と、先人が迷い苦しみながら追求した成果を謙虚に学ぶことを解いている。

今年度は「スポーツと栄養について」と題して、管理栄養士橋本玲子先生の講話を拝聴した。一．子供達の食事の状況、二．強くなる食事のコツ、三．目的別ワンポイント栄養アドバイス、特に三の項目では疲労回復と夏バテ予防、貧血予防、骨折予防について今後の指導に必要な多くのことに「気づく」ことができた。また、「スポーツ活動における効果的な水分補給」についても多くのヒントを戴いた。資格更新の為の義務研修という意識を捨て、今後も積極的に参加したい。有意義な研修会を企画開催して下さった県体協、ス指協の関係者に感謝の意を奉げます。

平成十二年度山梨県スポーツ指導者協議会理事会等報告

平成十二年度は、三回の理事会が行われ、左記の内容が話し合われた。

【理事会】

〈第一回〉平成十二年四月二十七日（木）スポーツ会館研修室
・平成十一年度山梨県スポーツ指導者協議会事業報告・決算について
・平成十二年度山梨県スポーツ指導者協議会事業計画・予算について
・平成十二年度山梨県スポーツ指導者協議会総会
・平成十二年度山梨県スポーツ指導者研修会について

〈第二回〉平成十二年十月三日（火）
・平成十二年度会報について
・平成十二年度会報編集計画について
・平成十二年度公認スポーツ指導者全国研修会について

〈第三回〉平成十三年三月一日（木）
・平成十二年度事業報告・決算について
・平成十三年度事業計画・予算について
・平成十三年度総会について
・平成十三年度山梨県スポーツ指導者研修会について
・各支部の現状と今後の活動について
・今後の県組織のあり方について

※　支部設立時は、活発な活動を行っていたが、活動が活発な支部とそうでない支部の差が出ているのではないか。
※　支部総会・研修会を行っているところでは、参加率が悪くもっと多くの会員に参加して欲しい。
※　会費の徴収が思うようにいかない。
※　支部組織も大切だが、競技別の組織が必要なのではないか。
※　魅力のある組織づくりが必要。

等の意見が交わされた。

平成12年度

各支部の活動

中巨摩支部

中巨摩支部活動の現状

中巨摩支部長　松本　弘

県スポーツ指導者協議会の組織活動をより強固にすべきはずの支部活動であるにも拘わらず、我が支部における現状はお世辞にも誉められる状態にはない。

県組織の発足と同時期に暗中模索の中で立ち上がった中巨摩支部は、度々の支部全会員への呼びかけにも拘わらず、その働きかけの熱意の不足か、と同時に組織の複雑さ等を絡めあわせこだまは返ってこない。そのような中、支部役員総辞職も考えられたが、十二年度中盤より若干の希望を見出し再スタートにかけることとした。

さて、十二年度におけるスポーツ振興会議は将来予想される総合型スポーツクラブがメインテーマとして開催された。しかし、その出席者の顔触れは主催者の意気込みとは程遠く、関係者の関心の低度を物語った。公認スポーツ指導者の活用をと叫び続ける我々の声がむなしくさえ響く。

公認スポーツ指導者の役割とは、指導者協議会とは、そして支部組織とは、やさしいようでありながら永遠の課題であろう。

しかしともかく十三年度からは新たな使命感を奮い立たせ、気持ちを切り替え、焦らず少しづつ前進することを総会出席者全員で誓い合った次第であった。

西八代支部

スポーツ指導者養成研究会　竜ヶ岳登山を実施して

西八代支部長　赤池　義明

本栖湖畔の水溜まりに氷がはり、霜の深い朝、キャンプ場登山口に集合し、山岳競技の二宮寛美・磯野澄也指導員から、登山時の諸注意を受け、平成十二年十一月十九日（日）九時四十分竜ヶ岳登山を開始した。南巨摩・甲府の方の参加もあり総勢二十名であった。今竜ヶ岳は写真家や登山者の人々が多く訪れる場所となった。標高一四八五mである。

曲がりくねった坂道、霜柱を踏む音を聞きながら歩き、一寸足を止め眼下には木々の間から深い藍色の本栖湖が見え美しい景色だった。

二時間二十分で頂上に着いた。頂上は一面ガスがかかり風が強く寒かったが、二人の指導員が湯沸器、鍋、水、カップラーメンを出し、昼食になるとすぐに一人ひとりに作った。ふきふき食べたラーメン、コーヒーの味は忘れることはできない。

昼食後、地図を見て回りの山を確認して、下山した。道は整備されていたが、急傾斜一直線階段は木材四六八段、下るは大変だった。途中、赤緑黄のもみじのコントラストが美しく疲れを忘れさせてくれた。

全長六km、浩庵荘で懇親会をし、高山植物について指導を受けた。登山を通し多くの事を知り有意義な研修会であった。

平成十三年度は中学生を対象に、登山を体験させる構想を考えている。

県外視察研修会

群馬県新町総合型地域スポーツクラブを訪ねて

甲府支部長　吉田　毅

平成十二年十二月二日、三日、の両日に渡って、山梨県スポーツ指導者協議会の指導のもと、全国的にも有名な、群馬県新町の総合型地域スポーツクラブの視察に行って参りました。（県下で十二名、県体育協会二名）

初日の二日には、新町中学校のグランドで、六年生はソフトボールを、小学一年生―六年生の混合チームが、同じグランドを利用してナワトビ、ドッチボール、と時間を区切って行っていました。その中には中学生、高校生も混じっていました。お母さん方も大勢参加されていましたので、直接お話を伺ってみました。このクラブでは、毎年沖縄に遠征するそうです。この時の費用が子供一人七万円から八万円、この費用の一際はクラブが負担し、親が同行する時は親の自己負担で、行政からの補助額は一万円くらいだそうです。親の金銭的負担について尋ねてみました。家にいて、パソコンやテレビゲームばかりやっているより、自然相手にスポーツを楽しんでくれた方が親も安心で、子供も健康に育つ、高学年（六年生）になれば、リーダーとして活躍出来るしそれを見るのも楽しみだ、という答えがかえってきました。

二日目は、ヨットの訓練でした。

ヨットは十人乗りの組立ヨットが二艘、小学一年生から六年生までの児童三十人程が、インストラクターの指導で組立てていました。

ここで驚かされたのは、新町の町長様、教育長様、河川を管理する建設省の所長様、中学校の校長先生、ＮＰＯ地域交流センター、研究員の坂本さん、皆作業服で子供達のヨット組立てを手伝っていました。このクラブは、複合クラブとしても、よく運営されているそうで、目から鱗が落ちる思いで帰ってきました。

県外視察研修会

平成十二年度　県外視察研修会に参加して

東山梨支部　理事　小川　徹

平成十二年度・スポーツ指導者協議会県外視察研修会が、総合型地域スポーツクラブの先進地と聞く、新町スポーツクラブで行われました。

新町は平成九年度から平成十一年度まで日本体育協会から「総合型地域スポーツクラブ育成モデル地区」に指定され、三年間その育成に群馬県内で最初に取組んだ町です。

中心的役割を果たしているのが、スポーツ少年団活動で年間行事も、五団体、二十八事業と幅広い活動を行っております。

又良い指導員は、ゆっくりと時間をかけて自分達で養成している。その結果、大学生から中学一年までの団員六十名が各団体で活躍している。

多くの事業の企画運営は、中・高校生以上の指導者が行っていた。この企画運営を、保護者組織と指導者組織がサポートする体制がしっかりしていることに、改めて感心させられました。

とりもなおさず、総合型スポーツクラブの育成は、あらゆる年齢層と、うまく融合し合いながら、スポーツや文化活動に積極的に活動する広辺の拡充を各団体が一体となって勧める必要があると思います。

いまできることから、まず手をつけて、一歩一歩、積み重ねて行くことが大切ではないでしょうか。

県外視察研修会

総合型地域スポーツクラブを視察して

西八代支部　赤池　久美子

平成十二年十二月、県外視察研修に西八支部より二名参加した。「総合型地域スポーツクラブ」として実施している群馬県新町を視察した。私は三年前「総合型地域スポーツクラブ」について講演を聞いたが漫然として、よく理解できなかった。

新町は日本体育協会の指定で三年間補助金を受け活動してきたが、補助金が打切りとなり、自主運営で再出発したのである。

この町のコーディネーター小出先生の指導方針は、「いつでも」「誰でも」「好きな時」に楽しいスポーツと地域コミュニティーを目標としていた。種々なスポーツ種目がなくとも「総合型」は設置できる。スポーツや文化活動を積極的にする団体が一体となって進める事が大切であると説明された。どんな活動も指導的立場に立つ人の実践力の大切さを感じ、小出先生の行動力には敬服した。

総合型地域スポーツクラブは、地域住民が自主的に自発的意志により設立し運営するものであると思った。二〇一〇年までに文部省保健体育審議会の答申ではスポーツクラブの設置を目標として、明文化されているので、全国各地で町作りの中心課題として、クラブの育成に取組んでいかなければならない。

新町の校庭で子供達が生き生き活動している姿を見て、自分の町にクラブを設置するには、スポーツ少年団が核となり推進し、実現に向かって一歩でも踏み出したいと考えている。

県外視察研修会

平成十二年度　県外視察研修会に参加して

一宮町　村松　敏子

日体協と文部科学省の両面から、育成事業の一貫として行われている総合型地域スポーツクラブ育成のモデル地区に指定され、取り組まれた群馬県の新町を訪れ、現在の活動状況、今後の課題等、研修させていただいた。スポーツ少年団の組織を核に、単一から複合に、複合から総合型地域スポーツクラブへと発展させた経過説明を受け、活動の様子を見学することができた。

（平成六年）少年団員の複数所属公認

（平成九年）総合型地域スポーツクラブ協議会の設立（月一回会議）

ナイターフェスティバル開催（年二回）

総合型地域スポーツクラブとしての組織作り

このような流れの中で、地域住民の理解をいただき、教師、有資格指導者、体協の協力、地元企業の応援も受け、会員制で自主運営できる状態にと発展し、現在にいたっている、少年団だからこそできたリーダーの活用による、中高年の参加を特に取り上げ、いつでも、誰でもが楽しめる、コミュニティに於ける住民参加のスポーツクラブ推進を、急がず、ゆっくり育てていきたいと指導者の小出先生は話された。私も研修を終え、今後、有資格指導者として、地域に合った総合型地域スポーツクラブ育成にかかわっていきたいと思う。

平成十二年度事業報告（案）

期日	会議の名称等	会場等
平成十二年 四月二七日（木）	●第一回　理事会	スポーツ会館研修室
五月　十日（水）	●会計監査	緑が丘体育館会議室
五月一四日（日）	●平成十二年度山梨県スポーツ指導者協議会総会（研修会）	勤労青年センター
六月三十日（土） 七月　一日（日）	●第一回全国スポーツ指導者関東ブロック連絡会議（県代表者参加）	新宿 ニューシティホテル
十月　三日（火）	●第二回　理事会	スポーツ会館研修室
十二月　二日（土） ～三日（日）	●公認スポーツ指導者県外視察研修会　総合型地域スポーツクラブ先進地視察	群馬県 新町スポーツクラブ
十二月　八日（金） ～九日（土）	●第二回全国スポーツ指導者連絡会議（県代表者参加）	東京　日体協
十二月　九日（土） ～十日（日）	●公認スポーツ指導者全国研修会	東京　（両国）
平成十三年 三月　一日（木）	●第三回　理事会	スポーツ会館研修室
三月三十日（金）	●会報　名簿の発刊	

平成十三年度事業計画（案）

期日	会議の名称等	会場等
平成十三年 四月二六日（木）	●第一回　理事会	スポーツ会館研修室
五月　八日（水）	●会計監査	緑が丘体育館会議室
五月十三日（日）	●平成十三年度山梨県スポーツ指導者競技会総会（研修会）	山梨学院大学 スポーツセンター
六月二九日（金） ～三十日（土）	●第一回全国スポーツ指導者関東ブロック連絡会議（県代表者参加）	埼玉
九月　六日（木）	●第二回　理事会	スポーツ会館研修室
十二月　七日（金） ～八日（土）	●第二回全国スポーツ指導者連絡会議（県代表者参加）	東京　日体協
十二月　八日（土） ～九日（日）	●公認スポーツ指導者全国研修会	東京
平成十四年 三月　一日（金）	●第三回　理事会	スポーツ会館研修室
三月二九日（金）	●会報　名簿の発刊	

公認スポーツ指導者賞を受賞して

公認スポーツ指導者賞を受賞して

B級指導員　松野　傳

私は、公認スポーツ指導者の資格を取得してから二十五年余になるが、指導の実績を自覚していないため、この度の受賞は思いも寄らなかったことであり、嬉しさよりも恥ずかしいような思いがしている。今まで主として学校体育に係わってきたのであるが、教員の定年退職を機にスポーツ活動からは、すでに遠退いたような気がしていた。しかし、今回の受賞と研修会への参加は大きな刺激になった。そして、生涯を通してのスポーツ活動の実践は、自分の生活に成就感が味わえるようになる、と考えるようになってきている。

科学技術の進歩などにより、生活が便利になるに連れて、人々の身体活動は減少してきている。そのため、健康は生活の全ての基盤であり、身体活動が健康に直接結びついていることを考えると、スポーツ活動を意図的に行なうことの必要性はますます大きくなってきているように思われる。そして週休二日制などにより、時間的にはスポーツ活動も実践しやすくなってきているようにも思われる。しかし、日本人のスポーツ活動の実践率は、まだまだ高くはないといわれる。「スポーツの原点は、好きになること」といわれるが、スポーツを観ることに留まらず実践するように心がけたいものである。

このような状況の中で、スポーツ好きの人が更に多くなるように、そして人々の間にスポーツの実践率が高くなるように、少しでも貢献できればありがたいと思っている。

感謝する心を伝えたい

(財)日本体育協会　スポーツトレーナー一級
プログラマー一種
向山　真悟

ゴールに入って「すごく楽しい四十二キロでした」と心から嬉しそうに語った、シドニーオリンピックでの高橋尚子は、人々に鮮烈な印象を残した。それは、ただ単に彼女が金メダルを獲得したからではなく、その走る姿や笑顔が共感を与えたからではないだろうか。金メダルは「私は走るのが好きだから」という彼女と、「ぼくはカケッコが好きだから」という小出監督との出会いの賜物である。

私もスポーツと出会い、バスケットボール選手として二十年、小中高生を指導して三十余年になるが、この間の幾多の人々との出会いが私を成長させ、そして、現在の指導者としての私があることに感謝したい。

今、週に三回、地元のミニバスを指導しているが、これからもこの『出会い』というものの大切さと、高橋選手が教えてくれた「好き」であること、「楽しむ」ことが大切である事を子供たちに伝え、「スポ少を卒団した子供たちが、また、リーダーとしてその団に戻り、みんなで地域の子供たちを育てていく」ような循環になる「生涯スポーツ」を進めるべく努力していきたいと思う。

この度、公認スポーツ指導者表彰を受賞できました事を、関係各位に心から感謝申し上げます。